

学校だより



# 平沼

令和2年11月30日

横浜市立平沼小学校



Mail ; y3hiranu@edu.city.yokohama.jp

URL ; <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiranima/>

## これからの授業風景

教務主任 石川 和之



散り敷いた落ち葉を北風が舞い上げる季節となりました。皆様にはご清祥のことと拝察いたします。

10月より後期が始まり、平沼カップを終え、10月に1年生、11月に5年、3年、2年、6年生、そして12月に4年生、1月に5組と、各学年が遠足等の校外学習に行っています。コロナ禍での活動で制約もある中、お弁当も離れて食べるなど工夫して子どもたちは過ごしています。

例年であれば、全校集会等を体育館に一堂に会して運営し、全校児童をリードしていた6年生ですが、このコロナ禍ではその多くを実現することができません。しかし、自分たちにできることを考えてよく頑張っています。例えば、平沼カップで同じ色の組となった1～5年生のすべてのクラスに応援メッセージを送ったり、各学年の校外学習の際には「気を付けて行ってきてね。」と温かい声をかけに行ったりといった具合です。現在、授業準備に多くの制約があつて、もどかしい気持ちをもってまいがちな私たちも、そんな前向きな子どもたちの姿に勇気付けられています。

さて、新型コロナウイルスの話題が多い今年度ですが、学校教育においては大きな節目となる2020年でした。というのも、10年に1度改訂される学習指導要領が小学校では完全実施となる年だからです。受け身で個別的な暗記・再生型の学習から、探究で協同的な思考・発信型の学習こそ、より大切になってきています。「学び手である子ども一人一人が真剣で本気になる学び」が期待されているのです。評価の観点も資質・能力ベースで各教科3つに整理されたのも、そのためです。

先日も今年度2回目となる校内授業研究会が開かれ、代表3クラスの授業の様子をビデオで撮って職員みんなで見合いながら検討しました。その中の一つ、5年生理科「振り子のはたらき」の授業の様子を紹介します。単元8時間を使って「曲のテンポに合うふりこを作ろう」と、様々な条件を替えて実験を行う学習の5時間目でした。前の時間に糸の長さを変えれば1往復する時間も変えられると学んだ子どもたちは、おそらく重さについてもそうだろうと予想し、実験に臨みます。しかし、重さを変えて何度やっても1往復する時間は変わりません。授業の最後にある子が次のように発言しました。

「そういえば、公園でブランコに乗っていて途中で降りても、つまり重さが変わっても、1往復する時間は変わってなかったよ。」

日常生活での経験と結び付けた素晴らしい発言です。一方で、重さも絶対に関係するはずだと予想していた子どもたちはなかなか納得していない様子です。授業を終えるあいさつの後、片付けよりも真っ先に黒板の前に集まって、「私はこう思うのに、どうしてだろう。」と議論し始める子どもたちがいました。土日にあらためて公園のブランコで実験し直してみたり、夕食の話題になったりしていることでしょう。より深い理解につながっていました。

「教科書にこう書いてあるから。先生が黒板にまとめたことだから。」と簡単に終わりにせず、本気で納得したいと願う子どもたち。そのような思いを高められる授業を、全職員で創っていきたいと思います。

